

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170500407		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム白岡		
所在地	埼玉県白岡市高岩65-1		
自己評価作成日	平成26年4月3日	評価結果市町村受理日	平成26年 5月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivgoVoCd=1170500407-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	平成26年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛の家グループホーム白岡」は、閑静な住宅街にあるホームです。近隣には季節感が味わえる自然ある環境が整っており、散歩時にも季節を感じながら会話をし、又地域の方々とも挨拶を交わすなど多くの交流もあります。ホーム敷地内には、季節ごとの花を植える花壇や、畑には、入居者様と共に、さつまいも等の稲を植え、収穫し、おやつや食事に提供して食を楽しんでいます。1人ひとりの嗜好や趣味を把握し、畑仕事、外食、外出を取り入れ、将棋・マージャン・テーブルゲームなどの趣味やクラブ活動にも取り組んでいます。1人ひとりの入居者様の想いを大切にしながら、その想いが叶えられるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を職員が常に確認し合い共有し、研修にも力を注ぎ、職員の認知症ケア介護スキルや気付き能力向上を図り、一人ひとりの能力に合わせて自立した生活を送ることができる支援に努めている。家族の訪問を歓迎し、家族と協力しながら利用者が楽しくゆったりとした生活が送れるよう、基本方針に忠実な支援が提供されている。リビングでは利用者と職員との弾んだ会話が聞かれ、利用者の話を傾聴し柔軟に対応している姿が見られた。行事や誕生日の利用者の笑顔あふれる写真が貼り出され、温かく和やかな雰囲気の中で、のんびりと過ごす事の出来る施設となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を申し送り時に唱和し、又ホーム内の認識・確認できる箇所に掲示している。事業所の理念を管理者と職員が共有し実践できるように取り組んでいる。	理念を施設内に掲示しており、職員は出勤時に理念を再確認すると共に、申し送り時に唱和し共通理解の下で利用者に接している。また、クレドを常に所持し、その人らしく過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の方々との情報を共有している。又毎日の散歩やボランティアの方、入居者の方が地域の方々とのつながり、関係を保つことが出来るようなケアを実践しております。	自治会に加入すると共に、施設の行事に近隣住民に呼びかけ参加を頂いたり、他の施設の行事に参加したり、散歩時の住民への挨拶や野菜を頂いたり、近くのお店に買い物に出掛けたり、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの見学、入居相談以外にも、認知症に関することやケアの方法をご相談毎にお答えし、認知症に限らず、福祉の相談窓口として対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、地域の方々に参加して頂き、ホームでの取り組みや状況等を伝え共有し意見を頂きサービス向上に活かしている。	年6回定期的に行われ、市の高齢福祉課・地域包括支援センター・自治会長・民生委員・家族の参加があり、事業報告・状況報告のほか、意見や要望を伺い、サービスの向上に反映できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市町村担当者の方と、連絡や報告をし、サービスの取り組みについても意見の交換をしながら信頼関係や協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当職員が毎回出席しており、事業所の活動状況や利用者の生活状況等を適宜報告し理解を得ている。市町村担当者と業務に関する課題について、いつでも相談できるよう連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社からの掲示物、指導で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。又勉強会を開き理解に努めている。	施設内研修や会議、日頃の話し合いでスタッフ全員が理解し、拘束をしないケアを実践している。言葉による拘束についても、職員間で何が身体拘束にあたるのか随時話し合う体制が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法についても勉強会を開き、常に皆が意識し注意を高め防止に繋がるように努め、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関・家族・関係者とその都度話し合いの場を設け活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の読み合わせを確実にし、疑問点はすべてその場にて解消している。納得されない場合は後日改めて席を設け、理解や納得ができるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に「ご意見、ご相談、ご要望受付書」とボールペン、ポストを設置し、意見、要望を反映できるようにしている。また家族アンケートを年1回行いサービスの質の向上をはかっている	面会は自由に行われており、面会時に出された意見や本社で行う年1回の家族アンケートを運営に反映させている。また、毎月利用者の家族に状況報告を行っており、家族の安心感に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、職員満足度アンケートを実施し、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。フロア会議・個人面談を多く取り入れ意見や提案を聞く機会を設け反映できるように取り組んでいる。	日常的に何でも相談できる体制が築かれ、管理者は会議以外でも随時職員の意見を聴くように努めており、運営に反映させている。本社への意見箱や直通電話、職員満足度アンケートも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職前の勤務年数、入社後の勤務年数、資格手当、コンピテンシー等、すべての項目で個人の努力、実績、勤務状況で差がつくような給与体系となっている。表彰制度もあり、向上心を持って働けるような職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格の方にはヘルパー2級の資格所得を促しており、学費も一部、会社負担がある。また、入社後もホーム内研修があり実施し技術・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の全国事例研究会・他のホームでの見学等情報を共有しながらサービスの質の向上の為に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居審査に関してはご本人のお話を聴き取り、要望に耳を傾け、入居前のアセスメントを確実にしている。コミュニケーションを第一に考え、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者を中心に、ご家族が困っていること、相談ごとはその都度、対応を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの機会を多く取り入れ、情報の理解や共有に努め見極めながら他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のコミュニケーションを通じた関係作りから、ご本人の希望、願いを聞き、皆で暮らしている者同士が協力しあえる関係づくりに努めるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を近況報告とし、毎月お送りしている。行事にも参加して頂き絆を大切にし本人を支えていく関係を築いている。面会時やカンファレンスにはご家族を交えて、話し合いの場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とのコミュニケーションを通じて、大切な人や場所のお話をお聴きしている。手紙のやり取りや電話の引き継ぎもやっている。	利用者本人や家族から馴染みの場所や趣味を伺い、職員はその情報を共有し対応している。自宅に帰り楽しんでくる利用者もいる。馴染みの関係を維持出来るよう手紙のやり取りや電話の要望がある時は快く応じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、職員、入居者の方が「一緒に生活している」という雰囲気が出るよう、意識し孤立しないよう支えあい関わり合いをもちながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時はご本人のグループホームでの生活をお伝えし、ご本人らしく生活して頂けるように努め相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、毎日のコミュニケーションの中でご本人の思いや暮らし方をお聴きし、ケアを行っている。コミュニケーションが難しいときはご家族からお聴きし、思いや意向を把握している。	日々の関わりを通して把握に努めている他、家族からも情報が得られている。情報を職員が共有し、常に対応できる体制があり利用者との信頼関係ができています。困難な場合は、日常の様子を通して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の暫定ケアプランの時からできる限りご本人の生活歴や馴染みの暮らし方をして頂けるよう、ご本人、ご家族から色々とお聴きし、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録をもとに、毎日のケアの中からできることと一人では難しいことを分けてケアを行っている。一人で難しいことは一緒に行い、できる限りご本人にやって頂くことを意識し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会時や担当者会議時はご本人、ご家族、職員で話し合いの場を設け、適宜、適切にケアに反映し現状に即した介護計画を作成している。	6ヶ月の長期目標を基に、3ヶ月に一度見直しを行い、利用者の変化に応じて随時見直ししている。電話や面会時の家族との会話や利用者の日常や状態変化を共有して話し合い、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録用紙にて介護記録の記入を行い職員同士で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に合わせた、外部の支援や必要な機関等に情報の共有を行い既存のサービスに捉われない柔軟な支援の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し行事等では地域の方々・ボランティアの方々に参加して頂き交流を深めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望・意向を大切にしながら、往診を受ける際には必ず、ご本人、ご家族から同意書を頂き、対応している。 又日々の状況や状態を伝え情報を共有し関係を築いている。	家族に協力して頂き、入居前のかかりつけ医と継続して診察を受けている利用者もいる。 内科・歯科医の訪問医の受診も可能であり、選択して頂き、利用者の健康管理は安心できる状況となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に日々の状況の変化について情報を共有しながら相談できる関係を築き個々のご入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的なお見舞い、面会を行っている。病院関係者やご家族を通じて、できる限り現状のコンディションに対してベストな生活空間で過ごして頂けるよう、情報の共有を図り関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも重度化した場合・終末期のあり方について説明をし同意を得ながらホームでの方針を共有している。 又地域の病院と連携し対応ができるように取り組んでいる。	家族及び利用者には、入居時に重度化したときの指針を説明し理解を得ている。終末期及び急変時には、主治医・家族等と話し合いを持ちながら、事業所として出来ることを説明し、職員も支援することを理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時には各ユニット事務所に掲示してあるマニュアル通り、対応を行っている。ホーム内研修、各ユニット会議等、研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の消防訓練(うち、一度は夜間想定)や毎日の防火自主点検業務を中心に、災害対策の意識を高めている。消防訓練の際には地域の方へのご案内も行い、協力体制を築いている。	年2回、消防署立会のもと、夜間想定を含め避難訓練を実施している。訓練時には近隣住民へ案内を行い協力を呼びかけている。 職員は毎日、防火自主点検表を基に点検を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格や生活歴、プライドを常に意識し、相手の立場にたち、プライバシーを損ねない言葉掛けを行っている。	研修を通して意識を高め、関わり方に留意をしている。決めつけた話し方はしない、利用者本位の自己決定を促すなど、特にトイレや浴室の利用時には、戸の開閉や声掛けに気配りや配慮を怠らないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションを中心とした関わりを通し、ご本人の思いや希望をお聴きしている。自己決定が実現できるよう、職員が対応し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本位ではなく、1人ひとりの生活を把握し、希望を取り入れペースを崩さぬように対応を行い希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のモーニングケアを中心にその人らしい身だしなみやおしゃれを行っている。 月に一度、訪問美容での外部サービスも受けることができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好品の把握、食事形態についても日々の関わり合いにて把握し対応をおこなっている。 おやつ作りも一緒に行い又食前・食後の準備や片付けをスタッフと一緒にやっている。	厨房があり利用者の手伝いは、お盆ふきやテーブルふきを行い、職員と一緒にテーブルを囲み食している。畑で収穫した物や散歩時に頂いた野菜を提供したり、外食をしたり、利用者は気分転換になると楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の栄養士が毎日の献立を考え、ホームへ配信している。量やバランス、水分量は十分確保できている。 一人ひとりのコンディションに合わせた食事形態をご本人、かかりつけ医や看護師、ホーム職員が協議し、決定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科の指示のもと、毎食後、必ず口腔ケアの声掛け、介助い本人の力に応じた口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄状況を把握し、声掛け等を取り入れ 本人の自立に向け、トイレで排泄を行って頂くように取り組んでいる。	排泄状況を記載したパターン表を活用した支援を行っている。さりげなく声をかけ促し、プライバシーにも配慮し、トイレでの排泄を基本に誘導を行いパット使用を減らす等、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、便秘に関しては自然排便を基本とし、ケアに取り組んでいる。 牛乳や水分強化、適度な運動を取り入れ個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの生活リズムや、入浴時間の希望を把握し職員の都合中心にならないように個々にそった支援を行い取り組んでいる。	一日おきには入浴した頂くよう、午前・午後の時間帯を決めつけずに支援している。利用者の意向を尊重しながら、入浴の強制は行わないようにしている。季節により柚や菖蒲湯を提供し、大変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の生活習慣を把握し、日々の状態・状況の変化に対応し休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットごとに服薬一覧表を用意し、誰が、いつ、何を飲んでいるかを全職員が理解できるようにしている。 又服薬マニュアルもあり、理解・実践できるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が画一的にならないよう、個々の生活歴を取り入れた余暇活動を行い、気分転換等の生活活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態や状況を把握し、外出等を支援している。 又個々にあった、外出希望を聞き、家族や地域の方々と協力しながら好みにあわせた外出先を決め支援に取り組んでいる。	その日の天気や利用者の体調を考慮し希望に応じて散歩、買い物、ドライブに出かけている。施設内の畑で作業をしたり、庭での日向ぼっこをしている利用者もいる。なるべく外で過ごす時間を作るようにしている。車を利用して花見やイチゴ狩り等の支援もしている。	外出することが特別な事にならないよう、日々の暮らしの中でも外に出る機会を増やし、外出が多くなることで利用者自身に危険予測が出来るようになると思われ、更なる外出支援の出来る施設と思われ期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで管理しているが、個々の希望に応じて小額を所持している方もおられ、個々にあった金銭管理の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム固定電話から家族や知人に電話がかけられるように支援し、手紙についてもやり取りができるように取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム敷地内には季節の花を植え、室内には季節を感じられるような環境づくりをしている。衛生管理等にも心がけ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は光が差し込み明るく、広いスペースで臭いもなく、壁には季節の飾り付けや写真があり、ゆっくりと落ち着いた雰囲気を感じることができるようになっている。テレビを見たりゲームをしてそれぞれ好みの場所でゆっくり時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には腰を掛けられるスペースがあり、独りになれる空間や気のあった利用者同士で過ごせるようにソファを設置したり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はエアコン、洗面台、照明器具以外のものは用意していない。使い慣れたものや今使っているものを持ち込み、ご本人だけの居室をご本人、ご家族と一緒に作っている。	自宅で使い慣れたベッドや家具を持ち込んで使用している他、家族との写真等も飾られている。他にも家族の協力を得て自宅から持ち込む等、利用者が居心地良く生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の位置はご本人がわかりやすいような印や表札を掲示し、自立した生活が送れるように工夫をし、安全で安心した生活が送れるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を申し送り時に唱和し、又ホーム内の認識・確認できる箇所に掲示している。事業所の理念を管理者と職員が共有し実践できるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の方々との情報を共有している。又毎日の散歩やボランティアの方、入居者の方が地域の方たちとのつながり、関係を保つことが出来るようなケアを実践しております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの見学、入居相談以外にも、認知症に関することやケアの方法をご相談毎にお答えし、認知症に限らず、福祉の相談窓口として対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、地域の方々に参加して頂き、ホームでの取り組みや状況等を伝え共有し意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市町村担当者の方と、連絡や報告をし、サービスの取り組みについても意見の交換をしながら信頼関係や協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社からの掲示物、指導で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。又勉強会を開き理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法についても勉強会を開き、常に皆が意識し注意を高め防止に繋がるように努め、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関・家族・関係者とその都度話し合いの場を設け活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の読み合わせを確実にし、疑問点はすべてその場にて解消している。納得されない場合は後日改めて席を設け、理解や納得ができるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に「ご意見、ご相談、ご要望受付書」とボールペン、ポストを設置し、意見、要望を反映できるようにしている。また家族アンケートを年1回行いサービスの質の向上をはかっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、職員満足度アンケートを実施し、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。フロア会議・個人面談を多く取り入れ意見や提案を聞く機会を設け反映できるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職前の勤務年数、入社後の勤務年数、資格手当、コンピテンシー等、すべての項目で個人の努力、実績、勤務状況で差がつくような給与体系となっている。表彰制度もあり、向上心を持って働けるような職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格の方にはヘルパー2級の資格所得を促しており、学費も一部、会社負担がある。また、入社後もホーム内研修があり実施し技術・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の全国事例研究会・他のホームでの見学等情報を共有しながらサービスの質の向上の為に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居審査に関してはご本人のお話を聴き取り、要望に耳を傾け、入居前のアセスメントを確実にしている。コミュニケーションを第一に考え、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者を中心に、ご家族が困っていること、相談ごとはその都度、対応を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの機会を多く取り入れ、情報の理解や共有に努め見極めながら他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がご本人の情報を共有し、その上でできる事を確認しながら、皆で暮らしている者同士が協力しあえる関係づくりに努めるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を近況報告とし、毎月お送りしている。行事にも参加して頂き絆を大切にし本人を支えていく関係を築いている。面会時やカンファレンスにはご家族を交えて、話し合いの場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とのコミュニケーションを通じて、大切な人や場所のお話をお聴きしている。手紙のやり取りや電話の引き継ぎも行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、職員、入居者の方が「一緒に生活している」という雰囲気が出るよう、意識し孤立しないよう支えあい関わり合いをもちながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時はご本人のグループホームでの生活をお伝えし、ご本人らしく生活して頂けるように努め相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、毎日のコミュニケーションの中でご本人の思いや暮らし方をお聴きし、ケアを行っている。コミュニケーションが難しいときはご家族からお聴きし、思いや意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の暫定ケアプランの時からできる限りご本人の生活歴や馴染みの暮らし方をして頂けるよう、ご本人、ご家族から色々とお聴きし、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録をもとに、毎日のケアの中からできることと一人では難しいことを分けてケアを行っている。一人で難しいことは一緒に行い、できる限りご本人にやって頂くことを意識し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会時や担当者会議時はご本人、ご家族、職員で話し合いの場を設け、適宜、適切にケアに反映し現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録用紙にて介護記録の記入を行い職員同士で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に合わせた、外部の支援や必要な機関等に情報の共有を行い既存のサービスに捉われない柔軟な支援の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し行事等では地域の方々・ボランティアの方々に参加して頂き交流を深めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望・意向を大切にしながら、往診を受ける際には必ず、ご本人、ご家族から同意書を頂き、対応している。 又日々の状況や状態を伝え情報を共有し関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に日々の状況の変化について情報を共有しながら相談できる関係を築き個々のご入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的なお見舞い、面会を行っている。病院関係者やご家族を通じて、できる限り現状のコンディションに対してベストな生活空間で過ごして頂けるよう、情報の共有を図り関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも重度化した場合・終末期のあり方について説明をし同意を得ながらホームでの方針を共有している。 又地域の病院と連携し対応ができるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時には各ユニット事務所に掲示してあるマニュアル通り、対応を行っている。ホーム内研修、各ユニット会議等、研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の消防訓練(うち、一度は夜間想定)や毎日の防火自主点検業務を中心に、災害対策の意識を高めている。消防訓練の際には地域の方へのご案内も行い、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格や生活歴、プライドを常に意識し、相手の立場にたち、プライバシーを損ねない言葉掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションを中心とした関わりを通し、ご本人の思いや希望をお聴きしている。自己決定が実現できるよう、職員が対応し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本位ではなく、1人ひとりの生活を把握し、希望を取り入れペースを崩さぬように対応を行い希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のモーニングケアを中心にその人らしい身だしなみやおしゃれを行っている。 月に一度、訪問美容での外部サービスも受けることができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好品の把握、食事形態についても日々の関わり合いにて把握し対応をおこなっている。 おやつ作りも一緒に行い又食前・食後の準備や片付けをスタッフと一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の栄養士が毎日の献立を考え、ホームへ配信している。量やバランス、水分量は十分確保できている。一人ひとりのコンディションに合わせた食事形態をご本人、かかりつけ医や看護師、ホーム職員が協議し、決定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科の指示のもと、毎食後、必ず口腔ケアの声掛け、介助い本人の力に応じた口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄状況を把握し、声掛け等を取り入れ 本人の自立に向け、トイレで排泄を行って頂くように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、便秘に関しては自然排便を基本とし、ケアに取り組んでいる。牛乳や水分強化、適度な運動を取り入れ個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの生活リズムや、入浴時間の希望を把握し職員の都合中心にならないように個々にそった支援を行い取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の生活習慣を把握し、日々の状態・状況の変化に対応し休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットごとに服薬一覧表を用意し、誰が、いつ、何を飲んでいるかを全職員が理解できるようにしている。 又服薬マニュアルもあり、理解・実践できるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が画一的にならないよう、個々の生活歴を取り入れた余暇活動を行い、気分転換等の生活活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態や状況を把握し、外出等を支援している。 又個々にあった、外出希望を聞き、家族や地域の方々と協力しながら好みにあわせた外出先を決め支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで管理しているが、個々の希望に応じて小額を所持している方もおられ、個々にあった金銭管理の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム固定電話から家族や知人に電話がかけられるように支援し、手紙についてもやり取りができるように取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム敷地内には季節の花を植え、室内には季節を感じられるような環境づくりをしている。衛生管理等にも心がけ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には腰を掛けられるスペースがあり、独りになれる空間や気のあった利用者同士で過ごせるようにソファを設置したり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はエアコン、洗面台、照明器具以外のものは用意していない。使い慣れたものや今使っているものを持ち込み、ご本人だけの居室をご本人、ご家族と一緒に作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の位置はご本人がわかりやすいような印や表札を掲示し、自立した生活が送れるように工夫をし、安全で安心した生活が送れるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を申し送り時に唱和し、又ホーム内の認識・確認できる箇所に掲示している。事業所の理念を管理者と職員が共有し実践できるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の方々との情報を共有している。又毎日の散歩やボランティアの方、入居の方が地域の方たちとのつながり、関係を保つことが出来るようなケアを実践しております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの見学、入居相談以外にも、認知症に関することやケアの方法をご相談毎にお答えし、認知症に限らず、福祉の相談窓口として対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、地域の方々に参加して頂き、ホームでの取り組みや状況等を伝え共有し意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市町村担当者の方と、連絡や報告をし、サービスの取り組みについても意見の交換をしながら信頼関係や協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社からの掲示物、指導で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。又勉強会を開き理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法についても勉強会を開き、常に皆が意識し注意を高め防止に繋がるように努め、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関・家族・関係者とその都度話し合いの場を設け活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の読み合わせを確実にし、疑問点はすべてその場にて解消している。納得されない場合は後日改めて席を設け、理解や納得ができるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に「ご意見、ご相談、ご要望受付書」とボールペン、ポストを設置し、意見、要望を反映できるようにしている。また家族アンケートを年1回行いサービスの質の向上をはかっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、職員満足度アンケートを実施し、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。フロア会議・個人面談を多く取り入れ意見や提案を聞く機会を設け反映できるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職前の勤務年数、入社後の勤務年数、資格手当、コンピテンシー等、すべての項目で個人の努力、実績、勤務状況で差がつくような給与体系となっている。表彰制度もあり、向上心を持って働けるような職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格の方にはヘルパー2級の資格所得を促しており、学費も一部、会社負担がある。入社後もホーム内研修があり実施し技術・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の全国事例研究会・他のホームでの見学等情報を共有しながらサービスの質の向上の為に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居審査に関してはご本人のお話を聴き取り、要望に耳を傾け、入居前のアセスメントを確実にしている。コミュニケーションを第一に考え、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者を中心に、ご家族が困っていること、相談ごとはその都度、対応を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの機会を多く取り入れ、情報の理解や共有に努め見極めながら他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のコミュニケーションを通じた関係作りから、ご本人の希望、願いを聞き、皆で暮らしている者同士が協力しあえる関係づくりに努めるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を近況報告とし、毎月お送りしている。行事にも参加して頂き絆を大切にし本人を支えていく関係を築いている。面会時やカンファレンスにはご家族を交えて、話し合いの場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とのコミュニケーションを通じて、大切な人や場所のお話をお聴きしている。手紙のやり取りや電話の引き継ぎも行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、職員、入居者の方が「一緒に生活している」という雰囲気が出るよう、意識し孤立しないよう支えあい関わり合いをもちながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時はご本人のグループホームでの生活をお伝えし、ご本人らしく生活して頂けるように努め相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、毎日のコミュニケーションの中でご本人の思いや暮らし方をお聴きし、ケアを行っている。コミュニケーションが難しいときはご家族からお聴きし、思いや意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の暫定ケアプランの時からできる限りご本人の生活歴や馴染みの暮らし方をして頂けるよう、ご本人、ご家族から色々とお聴きし、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録をもとに、毎日のケアの中からできることと一人では難しいことを分けてケアを行っている。一人で難しいことは一緒に行い、できる限りご本人にやって頂くことを意識し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会時や担当者会議時はご本人、ご家族、職員で話し合いの場を設け、適宜、適切にケアに反映し現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録用紙にて介護記録の記入を行い職員同士で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に合わせた、外部の支援や必要な機関等に情報の共有を行い既存のサービスに捉われない柔軟な支援の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し行事等では地域の方々・ボランティアの方々に参加して頂き交流を深めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望・意向を大切にしながら、往診を受ける際には必ず、ご本人、ご家族から同意書を頂き、対応している。 又日々の状況や状態を伝え情報を共有し関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に日々の状況の変化について情報を共有しながら相談できる関係を築き個々のご入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的なお見舞い、面会を行っている。病院関係者やご家族を通じて、できる限り現状のコンディションに対してベストな生活空間で過ごして頂けるよう、情報の共有を図り関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも重度化した場合・終末期のあり方について説明をし同意を得ながらホームでの方針を共有している。 又地域の病院と連携し対応ができるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時には各ユニット事務所に掲示してあるマニュアル通り、対応を行っている。ホーム内研修、各ユニット会議等、研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の消防訓練(うち、一度は夜間想定)や毎日の防火自主点検業務を中心に、災害対策の意識を高めている。消防訓練の際には地域の方へのご案内も行い、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格や生活歴、プライドを常に意識し、相手の立場にたち、プライバシーを損ねない言葉掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションを中心とした関わりを通し、ご本人の思いや希望をお聴きしている。自己決定が実現できるよう、職員が対応し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本位ではなく、1人ひとりの生活を把握し、希望を取り入れペースを崩さぬように対応を行い希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のモーニングケアを中心にその人らしい身だしなみやおしゃれを行っている。 月に一度、訪問美容での外部サービスも受けることができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好品の把握、食事形態についても日々の関わり合いにて把握し対応をおこなっている。 おやつ作りも一緒に行い又食前・食後の準備や片付けをスタッフと一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の栄養士が毎日の献立を考え、ホームへ配信している。量やバランス、水分量は十分確保できている。一人ひとりのコンディションに合わせた食事形態をご本人、かかりつけ医や看護師、ホーム職員が協議し、決定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科の指示のもと、毎食後、必ず口腔ケアの声掛け、介助い本人の力に応じた口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄状況を把握し、声掛け等を取り入れ 本人の自立に向け、トイレで排泄を行って頂くように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、便秘に関しては自然排便を基本とし、ケアに取り組んでいる。牛乳や水分強化、適度な運動を取り入れ個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの生活リズムや、入浴時間の希望を把握し職員の都合中心にならないように個々にそった支援を行い取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の生活習慣を把握し、日々の状態・状況の変化に対応し休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットごとに服薬一覧表を用意し、誰が、いつ、何を飲んでいるかを全職員が理解できるようにしている。 又服薬マニュアルもあり、理解・実践できるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が画一的にならないよう、個々の生活歴を取り入れた余暇活動を行い、気分転換等の生活活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態や状況を把握し、外出等を支援している。 又個々にあった、外出希望を聞き、家族や地域の方々と協力しながら好みにあわせた外出先を決め支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで管理しているが、個々の希望に応じて小額を所持している方もおられ、個々にあった金銭管理の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム固定電話から家族や知人に電話がかけられるように支援し、手紙についてもやり取りができるように取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム敷地内には季節の花を植え、室内には季節を感じられるような環境づくりをしている。衛生管理等にも心がけ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には腰を掛けられるスペースがあり、独りになれる空間や気のあった利用者同士で過ごせるようにソファを設置したり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はエアコン、洗面台、照明器具以外のものは用意していない。使い慣れたものや今使っているものを持ち込み、ご本人だけの居室をご本人、ご家族と一緒に作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の位置はご本人がわかりやすいような印や表札を掲示し、自立した生活が送れるように工夫をし、安全で安心した生活が送れるように支援している。		